岩手県一関市で歴史資料の保全に関する講演を行いました（2015/6/20）

テーマ：地域の歴史遺産の防災・活用・継承
場所：岩手県一関市・室蓬ホール

平成 27 年6月 20日、岩手県一関市の室蓬ホールで、公開シンポジウム「磐井の江戸時代をほりおこす－金（こん）家文書の世界」（主催：東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料研究部門、NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク、共催：一関市教育委員会）が開催されました。当研究所 人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野の佐藤 大介 准教授は、「金家文書との出会い－史料保全活動の経緯」と題して講演を行いました。

金家は、江戸時代の仙台領の中で「東山」と証された、一関市の東部、旧東磐井郡でも屈指の旧家の一つです。佐藤は平成 24 年度より同家の依頼をうけ、一関市芦東山記念館など地元の行政や、各地の歴史研究者・学生とともに、同家所蔵の歴史資料の保全に取り組んでいます。過去 4 年間の活動で、のべ 45 日・376 人を動員し、全体の約半数の古文書、約 11 万コマの撮影記録を終えています。講演は現地での最初の中間報告会で、佐藤は講演と共に企画運営にも携わりました。

講演では、デジタル撮影記録など、地域の文化遺産を災害などの危機から保全するための方法について概説しました。同時に、文書の概説、さらに現存する町並みや農村景観も含めて形成されている「東山」の歴史文化の全体を、国内外の人びとへ伝えると共に、地域の人びとが豊かに暮らしていくために活用することの必要性について述べました。

なお、講演の内容については、6 月 21 日付けの「岩手日報」および「岩手日日」の朝刊にて報道されました。

講演の様子

会場の様子

文責：佐藤大介（人間・社会対応研究部門）